

# 関西大学 経済・政治研究所 平成25年度 第5回 公開セミナー

[子どもの安全とリスク・コミュニケーション研究班]

情報社会が初めて議論された 1960 年代には、少数のエリートによる大衆の監視の危険性が問題視された。実際に ICT が浸透した現在、個人の行動に対する電子的監視の精度は当時の予想を超えている。しかし一方で、きわめて錯綜した状況も生じさせている。監視のテクノロジーは消費者に利便性をもたらす形で普及し、我々は監視の「恩恵」に浴する面すらある。監視におけるこのような両義性こそが、監視社会を論じる前提となっているのだ。

日時：平成 25 年 12 月 19 日（木）14：30～16：10

場所：関西大学千里山キャンパス

第 3 学舎 D 5 0 1 教室

【情報行動論（岡田）A201 授業振替】

テーマ：「見張る社会と見守る社会  
—監視社会の両義性をめぐって—」

報告：江下 雅之 氏

（明治大学大学院情報コミュニケーション研究科、教授）

司会：岡田 朋之

（子どもの安全とリスク・コミュニケーション研究班研究員、総合情報学部教授）

● 聴講自由 多数の方のご来聴をお待ちしております。

関西大学 研究所事務グループ

〒564-8680 吹田市山手町 3-3-35

TEL 06-6368-1179 / FAX 06-6339-7721

<http://www.kansai-u.ac.jp/Keiseiken/>